

外貨準備の通貨構成の変化から見えること

2025 年第 4 四半期末の世界の外貨準備の通貨構成が IMF から明らかになった。今回特筆する点は二つある。

一つは、ドルの割合の長期低落傾向は変わらず、56%台の半ば近くに減少した。これまでの最低水準だ。この点ではドル離れは確実に進んでいる。昨年の特ランプ関税後はドル資産の為替レートヘッジによる先物のドル売りが目立ったが、ドル資産の減少も徐々にではあるが確実に進んでいる。

今回の統計とは関係ないが、イラン戦争では新興国を中心に米国債の売却が増えた。ドル売り自国通貨買いの介入資金の捻出のためだ。原油などエネルギー関連商品の高騰のため輸入国は貿易収支の悪化による通貨安、それがさらに貿易収支の悪化を促す悪循環に陥ることが想定された。そこで通貨安を抑制するためのドル売り介入が必要になった。次回公表の 26 年第一四半期の統計ではドルの割合はさらに減少の可能性が高い。

もう一つは、その他通貨の割合の増加傾向が強まったことだ。その他通貨とはドル、ユーロ、円、ポンド、人民元、オーストラリアドル、カナダドル、スイスフラン以外の通貨で、統計上まとめて計上される通貨の総額だ。その他通貨の割合は 2020 年には 2%台だったが、今や 6%を超えた。この割合はドル、ユーロに次いで 3 番目に多く、円を抜いた。まさに世界がドル一極体制から多極通貨体制への移行の進行を象徴するものだ。

通貨別にポイントを挙げる。

1. ドルの割合は 56.77%で、前回より減少した。
2. ユーロの割合は 20.25%で前回よりも減少したが、20%台は維持した。ドルに次ぐ通貨でドル減少の受け皿になることが期待されるが、勢いは感じられない。ユーロの資本市場の統合などドルの受け皿になるためのインフラの整備が期待ほど進んでいない。

3. 人民元の割合は 1.95%だった。前回(1.92%)より微増だが、2%にも届かなかった。それでも今年、習近平は人民元の外貨準備通貨としての利用を促進する方針を示した。貿易決済などでの利用に比べると外貨準備のシェアははるかに低く、国際通貨としての人民元の条件を欠く一因となっている。それには資本取引の自由化が必須だが、この点での動きは鈍い。習近平の指示なのでそれなりに増えるだろうが、どこまで行くか。
4. 円の割合は 5.78%で、前回に比べ微減だが、最近は一進一退でユーロに次ぐ 3 番手の地位は変わらない(その他通貨は除く)。人民元が低水準に留まっている間は世界の外貨準備の管理者にとって円はアジアのポートフォリオとして欠かせない。低金利でも安定した需要がある。
5. ポンドの割合は 4.41%と低減傾向にあり、2016 年第三四半期以来の低水準にある。EU 離脱決定の国民投票をした後の水準と同じだ。
6. オーストラリアドル、カナダドルの割合はそれぞれ 2.03%、2.49%だった。両通貨とも前回よりもわずかに減少した。
7. その他通貨の割合は 6.13%だった。前回 5.61%から上昇した。

以上です。